

厚生労働科学研究費補助金（免疫・アレルギー疾患研究事業）
分担研究報告書

災害時のアレルギー疾患に対応するツール作成

研究分担者 二村昌樹 国立病院機構名古屋医療センター小児科 医長
正木克宜 慶応義塾大学医学部内科学（呼吸器） 助教

研究要旨：行政、患者・養育者、災害医療従事者、関連学会・団体等でアンケート・聞き取り調査を行い、現状でのアンメットニーズや、災害関連情報公開法の問題点を抽出した。令和3年度は、それらのデータに基づき、問題点を解決することを目指してツールを作成した。ツールは、アレルギー疾患の基本的解説、災害に備えて準備するもの、避難所運営マニュアル、災害時の対応の方策、アレルギー表示の見方、災害で困ったことの事例集、有用な情報のリンク集、災害医療従事者が利用する薬剤解説等のパンフレット、災害での自助啓発のためのポスター、疾患情報を記載する「備えるブック」、アレルギー情報を明示する「ゼッケン」等のツールから構成され、内容に応じて患者向け、行政向け、医療従事者向け等とした。プロダクトは印刷、パソコン、タブレット、携帯電話での閲覧が用意で、ダウンロードして保存できるPDFの形式で作成し、汎用性を高めた。普及のため、冊子を各所に送付し、アレルギーポータルに掲載した。

A. 研究目的

災害時にアレルギー疾患に対応するには、発災時に有用な情報提供を行うだけでなく、平時からの備えの情報を提供することも必要である。本研究班では、効果的かつ効率的に災害に関連した情報を提供できるツールを作成することを目的とした。

実際の場面で役立つ資料を作成するためには、どのような情報が必要とされているか、どのように記載され、公開されるべきかが大切である。そのための基礎データとして、行政、患者・養育者、災害医療従事者（医師・看護師・栄養士・薬剤師）に対して、現状の問題点を抽出するためのアンケート調査を行った。調査は、それぞれ研究分担班の行政班、患者・養育者班、災害医療従事者班が行った。ツール作成班は、自治体が提供する食料備蓄のアレルギー対応に関する情報、日本国内の主要な医学関連学会が提供する災害関連情報等が、実際どのように公開されているか、一般市民からアクセスしやすいか

を調査することにより、ツール作成の参考とした。

B. 研究方法

各分担班は、調査データより現状の問題点を抽出し、解決策を提案した。ツール作成班は、提案に基づき、ツールの内容を決定し、作成した。

C. 研究結果

- 調査データに基づき、次のツールを作成した。
- 1 災害時におけるアレルギー疾患への対応
 - 2 アレルギー疾患がある方が災害時にすべきこと
 - 3 アレルギー疾患のための災害への備えと対応
 - 4 お薬・水・食料備蓄できていますか？（ポスター）
 - 5 アレルギー表示の注意点とアレルギー用ミルクの紹介
 - 6 東日本大震災の避難所で実際に起きた事例
 - 7 一般向けFAQ集
 - 8 自治体のための災害の備えと避難所運営の手引き
 - 9 災害時のアレルギー治療薬

10 リンク集

付録1 アレルギーゼッケン

付録2 そなえるブック

全体を通じて、下記の原則で作成した。

① わかりやすく短時間で理解できるようにした。
→専門用語を最少限にし、イラスト・写真を多用し、文章は簡潔にした。

② 状況に合わせて複数の方法で閲覧できるようにする。

→印刷、PC・タブレット・携帯電話で閲覧等が容易にできるPDF形式とする。

③ 患者向けだけでなく、避難所を運営する行政、実際に現場で医療を行う医療従事者向けの資料を横断的に作成した。

④ 各資料の対象を示した。

→対象を、アレルギー疾患がある方、行政担当者の方、医療従事者の方に分け、色と形でわかりやすくマークした。ただし、対象は厳格なものではなく、どなたが読んででも役に立つように作成している。

⑤ 容易にアクセス、ダウンロードできるようにした。

→日本アレルギー学会のアレルギーポータルに掲載した。トップページの災害時の対応を1回クリックすれば閲覧できるようにした。

下記リンクだと直接アクセスできる。

<https://allergyportal.jp/just-in-case/>



直接リンクのQRコード

以下、各ツールについて解説する。ツールについては、総括報告書の資料5を参照のこと。

1. 災害時におけるアレルギー疾患への対応

患者・養育者を対象としたパンフレットである。代表的疾患であり頻度も高い、気管支喘息、アトピー性皮膚炎、食物アレルギーに関して簡略に記載している。気管支喘息は、何によって悪化するか、悪化

を防ぐにはどうするか、どういう場合に医師を受診するべきか、電源がない時はどうするか、発作にどう対処するかなどについて記載している。アトピー性皮膚炎は、皮膚の清潔を保つ方法、避難所での外用薬、かゆみの対処などについて説明している。食物アレルギーに関しては、炊き出しや支援物質も含めた表示の確認、食物アレルギーがあることを周囲に知らせる方法、どのような症状があれば緊急な治療が必要か（エピペン®の使用基準）、緊急マニュアルのリンクなどを記載している。

患者向けではあるが、行政担当者にも有用な情報となっている。患者アンケートで、「他にも大変な方たちがいる中で、アレルギーがあることをなかなか言いにくい」という意見があったが、そんな場合でも「ためらわずに行政担当者に相談すること」と記載している。このような内容は、積極的にアレルギー情報を得ることが望ましいという行政へのメッセージともなると考える。その他、避難所の環境整備で気を付けること、炊き出し時の食品表示の方法などが、行政にも有用な情報となる。

2. アレルギー疾患がある方が災害時にすべきこと

患者向けに、アレルギー疾患がある場合に災害時に最優先ですべきことを簡潔に記載してある。パンフレットとしてだけでなく、ポスターとして掲示することで、啓発を促進することができる。

3. アレルギー疾患のための災害への備えと対応

災害への備え、対応を簡潔にまとめた患者向けパンフレットである。非常持ち出し袋、家庭備蓄など災害に備えて準備するもの、アレルギー疾患患者が要配慮者であること、アレルギー食の家庭備蓄の量、ローリングストック法、日頃からのアレルギー疾患コントロールや共助の重要性、公助の情報取得の重要性などについて記載している。内容はできるだけ絞り、簡潔にしたが、記載すべきものとして患者・養育者アンケートからわかった現状であまり行われておらず啓発すべきことや災害時のニーズを参考にしている。

4. お薬・水・食料備蓄できていますか？(ポスター)

自助の啓発を意図して、診察室など医療機関等に掲示するためのポスターである。わかりやすいイラストで記載されている。

5. アレルギー表示の注意点とアレルギー用ミルクの紹介

患者、行政、災害医療従事者のすべて向けの、アレルゲン表示とミルクアレルギー用のミルクの解説パンフレットである。食物アレルギー児では、援助物資や炊き出しの食品中のアレルゲンを正確に知ることが大切である。患者は表示を確認する必要があるし、提供する行政、栄養士を中心とした災害医療従事者は、正確な内容を把握し、情報を明確に提示する必要がある。これもアンケートにより把握したニーズに基づいて作成している。

6. 東日本大震災の避難所で実際に起きた事例

東日本大震災の避難所で起きた代表的で教訓的な事例とその解決について記載しており、患者、行政向けである。この資料の大切なところは、事例から学ぶ患者の取り組み、事例から学ぶ運営側の取り組みを併記したところである。アンケート調査から、患者のニーズと行政の状況把握のギャップが判明したが、その点を考慮して作成している。

7. 一般向け FAQ 集

一般向けとしているが、患者、行政、災害医療従事者すべてが活用できる Q&A 集である。アンケートにより判明した、それぞれのグループの知りたいことを中心に、簡潔にわかりやすく記載している。

8. 自治体のための災害の備えと避難所運営の手引き

行政向けの災害に対する備え、避難所運営の手引きを解説したパンフレットである。行政へのアンケートで判明したアレルギー疾患に対する知識の需要、どのような場合に緊急性があるが、どのように重症れらパンフレットを使用した方々に追跡調査をすることが必要であると思われた。また、普及のための

度を判断するか、まず何を行うべきかなどについて、各疾患ごとに記載している。また、行政によるアレルギー対応食品備蓄、情報公開、患者への自助啓発活動の重要性、炊き出し時の注意点、食品の分配、気管支喘息、アトピー性皮膚炎の行政対応の注意点などについて記載している。さらに、アクセスする可能性の高いアレルギーポータル、日本小児アレルギー学会相談窓口、特殊栄養ステーションのリンクを QR コードとともに掲載した。

9 災害時のアレルギー治療薬

災害医療従事者向けに、アレルギーの各疾患で使用する薬剤について記載したパンフレットである。薬剤名の羅列にならないよう処方例を掲載し、具体的な内容とした。

10 リンク集

すべての方向けのリンク集を、対象ごとに色分けして掲載した。QR コードを併記し、携帯電話などでも入力しやすいようにした。

11 アレルギーゼッケン

患者アンケートから、アレルギーがあることを伝えるにくい、行政アンケートから、アレルギーの情報を収集しにくいという意見があり、食物アレルギー、気管支喘息がある場合にすぐわかるように、ゼッケンを作成した。

12 そなえるブック

アレルギーに関する患者情報を簡潔に記載し、かつ携帯しやすい「そなえるブック」を作成した。折りたたんでコンパクトにできる。

D. 考察

以上、災害時のアレルギー疾患対応に役立つツールを作成した。ニーズを最大限満たすことを目標としたが、さらに有用なものとするためには、今後この広報活動も重要である。

E. 結論

災害時のアレルギー疾患対応に役立つツールを作成し、印刷物を各自治体、日本栄養士会、日本薬剤師会、日本看護協会、患者会、アレルギー拠点病院、に配布、PDF をアレルギーポータルに掲載した。

F. 健康危険情報

特になし

G. 研究発表

1. 論文発表

1) 吉田 幸一, 二村 昌樹, 小林 茂俊. 大規模災害時におけるアレルギー疾患患者の問題とその対応
災害対策のためのツール作成. 日小ア誌 2022 ; 36 : 70-73.

2. 学会発表

1) 大規模災害時におけるアレルギー疾患患者の問題とその対応 「災害対策のためのツール作成」

吉田幸一

第 58 回日本小児アレルギー学会学術大会

2021. 11. 13

2) 「災害におけるアレルギー疾患の対応」 ツールの作成 二村昌樹

第 71 回日本アレルギー学会学術大会

2022. 10. 7-9 発表予定

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許出願

予定を含めてなし

2. 実用新案登録

予定を含めてなし

3. その他

特になし